

ら。ふ。れ。た。

2021年
3月号
vol.77

発行：株式会社ラプロス
発行人：代表取締役 樋口繁樹
〒810-0001
福岡市中央区天神1丁目12番1号
日之出福岡ビル5階
TEL092-737-2211
FAX092-737-2212
弊社のHPは下記URLよりご覧いただけます。
<http://www.lapros.co.jp/>
編集担当：久保山、藤吉

2020年7月3日から7月31日にかけて、熊本県を中心に福岡、長崎、また中部地方など日本各地で発生した集中豪雨より被災された方々に、心よりお見舞い申し上げます。コロナ禍での復興は心身ともに負担が大きいかと存じます。皆様の日常、皆様の笑顔が一日でも早く取り戻せますよう、皆で助け合いながら乗り越えていきましょう。

ステイホーム長期戦、皆さんどうお過ごしですか？

福岡県に出た2度目の緊急事態宣言も、この2月末に解除はされましたが、ワクチン接種などで集団免疫を獲得するまでは、どうも今の生活を続けられないといけないうですね。

家人との年3~4回の旅行と、店を友人から聞いたり自分で調べたりの食べ歩きが趣味の僕としては羽根をもがれた状態が1年続いているわけです。宮城県で暮らす息子（1年半前に結婚しました！）夫婦にも一昨年の6月からずっと会えていません。リモート飲み会は数回やりましたが、やはりそれではね〜、トホホ〜な気分です。

家の近くを散歩したり、テイクアウトでちょっと高くても美味しいものを頼んだり。スケールの小さな楽しみ方？で何とか凌いでいる、という感じですかね。

自宅にいますと、TV番組では多くの時間をコロナ関連に割いていますが、あれをずっと観ていると疲れますよね。



ニュースや報道番組以外の、ワイドショーや、コメンテーターが「あ〜でもない、こ〜でもない」という番組は視聴率稼ぎの極論や断定的な解説が多いので苦手です。後で言うのであればなんでも言えるよ、そりゃ！スマホでついつい見てしまうヤフーニュースなどのコメントも、こんな考え方もあるんだな〜くらいで到底鵜呑みにできる代物ではありません。

家人はもっぱらハマった韓国ドラマを3~4本、繰り返し観ています。（よく飽きないモノだな〜）僕は読書派なので、昨年GWや夏などの長期休暇中は「論語と算盤」とか「コロナ後の世界を生きる」「コロナ後の世界」など真面目分野に興味を持って読んでい

ましたが、秋以降長期戦に疲れてきて（^^）さらりと面白くて泣けたりする本にハマっています。

小川糸の「キラキラ共和国」、中野量太の「浅田家!」、瀬尾まいこの「そして、バトンは渡された」など。芥川賞、

直木賞より本屋大賞!ってなところですね。随分前にも書きましたが、「海賊と呼ばれた男」が僕の本屋大賞デビューで、百田尚樹は一気に著書を読み漁りましたし、小川糸は「ツバキ文具店」以来のファンです。

今ハマっているのは瀬尾まいこ。「戸村飯店 青春100連発」など一気に1日で読んでしまいました。本を読んで泣いたのは小学生の時の「フランダースの犬」が最初だったように憶えています。最近涙腺が弱くなったのか、「そして、バトンは渡された」「浅田家!」でも思わずハラリホロリ。作者の意図どおり(???)泣ける自分を褒めてやりたいです。(何のこっちゃ!)

次号が出る5月頃には不安なくワクチン接種がどんどん進んでいるといいですね!

オリンピックも国外内世論とも賛成派がピンチを迎えておりますが、橋本新会長の下、無観客でも何とか開催してアスリートたちの競演を観戦したい!と僕はしぶとく思っております。『こういう時に...』ではなく『こういう時こそ!』です。スポーツは不要不急であるとは思いません。アスリート達に東京から世界に勇気を発信してほしい!と心から願うばかりです。



代表取締役 樋口繁樹



懐かしい昔と今シリーズ 「埋立地編」 文:赤澤

私の母校である当仁中学校は中学校1年生の時、昭和56年(1981年)に鳥飼(現在の城西中第二グラウンド)より埋立地・福浜の新校舎に移転しました。ちょうど、建築基準法が改正になり、新耐震基準となった年ですね!

私が通っていた当時の当仁中学校は海に囲まれており、福岡ドームのある地行浜は埋立て工事が始まったばかりで、まだ工事が本格化する前でした。

写真は卒業アルバムの

ものなので、1983年頃にちょうど、地行浜とその向こうの百道浜の輪郭ができたんですね。

当時の海岸線は、今のよかトピア通り沿いにあったので、その旧

地行浜で魚釣りをしたりして友達と遊んでいました。砂浜に立っているとヒラメの子が足の裏に潜り込んで来ていました。足の裏のくすぐったい感触を今でも覚えています(*^^*)。大濠公園から流れ込む黒門川(今はほとんど道路下の暗渠)と菰川の河口付近の堤防で、テトラポットが並ぶ海を眺めながらハゼ釣りもしました。海は今より汚れていたかもしれませんが、ハゼの唐揚げも食べていましたね(*^^*)。朝は早起きをして、給油センター側の堤防に張り付いているカニ



昭和当時の当仁中学校

やイカ釣り漁船が落としかイカを網ですくったりもしました。漁師だった友人のお父さんがさばいてくれたイカ刺しは美味しかったですね(^^♪)。

大学生の頃、世はバブル真ただ中の平成元年(1989年)、埋立て後の地行浜と百道浜でアジア太平洋博覧会(よかトピア)が開催されました。友人たちと数人で埋立てられた広大な土地に並ぶパビリオンや福岡タワーを見て回りましたが、当時は今のよう近代的な街になるとは想像できていなかったですね。

ちょうどその平成元年に南海ホークスがダイエーホークスとなって福岡に来たため、引越しのアルバイトで当時2軍監督だった藤原満さんや、現2軍監督の藤本博史さんの荷物を運んだこともありました。ホークスを迎え入れた平和台球場で、コカ・コーラとファンタ売りのアルバイトをしながら、当時は珍しかった野球観戦をさせてもらいました(^^♪)。

福岡ドームが出来てからは毎年のように野球観戦に行っていますが、ホークスタウンがマークイズももち&ツインタワーマンションに生まれ変わり、この「シーサイドももち」エリアも目まぐるしく進化しましたね。



当仁中学校の今(ドーム手前)



埋立て前の百道浜&地行浜(今のよかトピア通り付近)



百道浜の今

バブルが崩壊した平成3年(1991年)に不動産会社に就職して東京配属となり、平成5年(1993年)に福岡に転勤となりました。戻った当初は姪浜に住みました。当時、姪浜駅南エリアは区画整理工事が大規模に行われており一帯が立ち入り禁止となっていました。私が住んでいた姪浜駅北口エリアの埋立地、愛宕浜エリア(西福岡マリナタウン)には、平成7年(1995年)開催のユニバーシアード選手村が建設されました。

時は流れ、その後私は首都圏勤務を経て平成14年(2002年)から2度目の福岡赴任となりました。その際には、愛宕浜リバーラガーデン内で当時の九州最高峰マンション、マリナタワー(33階建て・2007年竣工)を含む3棟や、イニシア愛宕浜(2008年竣工)などの分譲事業に携わりました。

今の九州最高峰は、人工島・アイランドシティにあるセンターマークスタワー46階建てのようですね。住んでいてワクワクする街「福岡」を想い、今後も微力ながら街づくりや家づくり、街の再生やマンション再生に少しでも貢献できればと思います。

免許皆伝

MENKYOKAIDEN

その57

『春と花粉症と献血。』の巻

私アラキの戸建てへの思いをつらねるこのコーナー、57回目となりました。冬が過ぎてすっかり春です。気持ちの良い季節に大きく窓を開けて外の空気をたくさん室内に取り込みたい、ですよ普通。

けれども、春と言えば花粉症。アラキは杉と桧とハウスダストのアレルギーがあり、例年、2月を過ぎて（ここオヤジギャグね）5月くらいまでの間は、くしゃみ鼻水鼻詰まり、目の周りの腫れとかゆみ、ひどいときには耳の穴の中までかゆくなります。春になって窓を開けるとするのは考えられません（でした）。

戸建住宅のプランをつくる時、営業マンから必ず「バルコニーを設けてほしい」と言われます。2階リビングの場合、キッチンのそばにサービスバルコニーは必要だと思うのですが、花粉症のアラキは、洗濯物をバルコニー、つまり屋外で干すということとはご法度なので理解できません。

実際、2階リビングに住むアラキは、自宅でバルコニーを使うことがまったくありません。

とは言え、バルコニーがない家をつくって売れないと困りますので、宗旨に反してバルコニーは設けます。



近いうちにプロスペリテの家にお住まいの方に、バルコニーの使い方についてアンケートをしたいと思っています。どうかご協力をよろしくお願い致します。

花粉症の話に戻りますが、アラキは2年前から「減感作療法」を行っています。減感作療法とは、アレルギーの原因物質を少しずつ投与して身体を慣らしていくというもの。スギ花粉エキスを舌下に垂らす方法と注射する方法がありますが、私は注射を選びました。はじめの頃は週1回注射をしていましたが、半年くらい経ち月1回となりました。1年でかなり効果が現れ、2年目となる今年は花粉症からほぼ開放されています。鼻水のない春は、ほんとに気持ちいいですね。治療費は健康保険が使えるので、1回あたりラーメン1杯よりも安いです。

注射と言えば、もうひとつだけ。献血のことです。コロナの影響で、献血がたりないそうです。職場や学校での団体献血がことごとく中止となったこと、自粛により献血に行く人が減ったことが原因だそうです。10年前の東日本大震災の直後は、空前の献血ブームで行列ができるほどだったのに、です。

献血をしようとしても、過去の病歴、薬の服用や健康状態、海外渡航歴、歯科治療や予防接種の直後などでできないことがあります。インフルエンザ予防注射は24時間、風疹は4週間以上経たなければ、献血はできません。コロナワクチン注射をした後、どれくらいの間を空けなければならないのかは未だ発表されていませんが、コロナワクチン注射は3週間の間隔を空けて2回行いますので、献血ができない期間は2倍になります。そうすると、今以上に献血をする人（機会）が少なくなり、血液不足がますます深刻化しそうです。献血をしたことがある方はおわかりでしょうが、献

血ルームでは密になる場面はなく、検温、問診、採血検査を経て、針を刺すときの消毒は普通の注射のときよりもしっかりと行います。もちろん注射針は使い捨て。衛生面、感染予防は本当に厳重に管理されています。

アラキは、ありがたいことに健康でいますので、機会があれば献血をしています。これまでは400ml献血をしていましたが、次の献血まで12週間空けなければならないため、去年は3回しかできませんでした。そこで先日、初めて成分献血をしました。成分献血とは、血液の中から血漿や血小板など医療上必要な成分を分離して取り出し、赤血球などは再び身体に戻すというものです。身体の負担が少ないので、次の献血は2週間経てばできます。一度抜いた血液を身体に戻すと聞いて、てっきり注射針を2本刺すのかと思っていたら、1本だけでした。長椅子に横たわりテレビを見ながら温かいお茶をいただき、リラックスした状態で痛みもなく終わりました。今年は成分献血を中心に5回以上を目標としています。

献血ルームは、天神イムズ、博多駅バスターミナル、キャナルシティにあります。1時間～1時間半ほどかかりますので、待ち時間がないように事前に予約することをおすすめします。詳しくは日本赤十字社のホームページ（「献血」で検索）をご覧ください。

こんな時だからこそ、献血を。みんなで。



久保山の



～ 桜の季節 ～

寒さがゆるみ、暖かい日差しとともにだんだんと春の訪れを感じられるようになりました。爽やかな心地よい風がコロナ自粛の疲れを少しは吹き飛ばしてくれそうな気がします。そうなってくると待ち遠しいのは桜の開花ですね。

お花見の起源というのは、中国の貴族が梅の花で花見をしていたのを当時の遣唐使が日本に取り入れ、奈

良時代の日本の貴族たちは梅の木を庭に植えてお花見を楽しんだそうです。当時の日本の和歌には桜よりも梅の花にまつわる和歌のほうが多いとのこと。

それから時代は移り平安時代、京都御所からめったに外に出られない嵯峨天皇が久々に御所車に乗って外出した先で満開の桜に出会い、それはそれは大層感動し、初めて桜の花で花見を行ったと言われているそうです。私たちの今置かれている自粛生活に照らし合わせると、満開の桜を見て感動した気持ちが分かる気がします。

また、川沿いに桜の木が連なって植えてある風景をよく見ることがありますが、今よりも設備の整って

なかった時代に「桜の木を植えれば人が集まり自然と地盤が固まる」ということで川沿いに桜の木が植えられるようになったとも言われているそうです。桜の花の持つ求心力は地盤固めにもなると考えられていたんですね。

新型コロナウイルス感染症の影響により、今年もお花見の自粛が要請されると思いますが、人混みを避け、マスク着用と十分な間隔距離を取って、お散歩がてら家の近くの公園などの穴場スポットを探して、少しでも桜の咲いている姿を見て春を感じられたらと思います。



ご紹介キャンペーン

ご家族・ご友人をご紹介ください!

5 商品券
万円分

ご紹介者さまにプレゼント!

※ご紹介者さまからの紹介でご成約に至った場合

現在販売中の新築戸建「プロスペリテ」シリーズは

ご紹介キャンペーンを実施中です!

ぜひ、ご家族・ご友人の方をご紹介ください!

詳しい情報につきましてはQRコードから

戸建「プロスペリテ」特設ページでご覧いただけます。



ラプロスの戸建プロスペリテ
PROSPERITE



新築戸建「プロスペリテ」
特設ページはこちらから→



編・集・後・記

藤吉

卒業のシーズンですね。昨年からのコロナ禍により学校生活でもこれまでとは異なる対応を強いられ、行事も一部変更されたり行われることなく卒業を迎えられる方、それを見守られてきたご家族にとっては忘れられない一年であったと思います。いろいろな事が中止、延期、縮小され、1月の「一生に一度のことなのに」という成人式のニュースも思い出されます。

今年は、その年齢や学年ならでは

の貴重な経験ができたり、楽しい思い出を作ることができるように、また、様々なスポーツ大会（規模の大小ではなく）や各イベント等（山笠も）が行われ、活気ある日々になりますように願っています。

大人も「楽しいな」とある生活は大事ですよ。

「桜は来年も咲くから」とお花見も自粛となった昨年ですが、この春も宴会等ではなく静かに見ることにしようですね。